

DFG 東京事務所オープニング記念行事小野理事長ご挨拶(案)

日時:平成 21 年 4 月 15 日(水) 10:00~

場所:ドイツ文化会館

シンポジウムテーマ:「Promoting Young Researchers(若手研究者の支援)」

(所要時間5分程度、言語:日本語(日英同時通訳あり)、冒頭と最後は独語)

クライナー会長、ご列席の皆様、

ゼアー フェ^レーター/ヘア プロフェッサー クライナー/

Sehr verehrter Herr Professor Kleiner,

マイネ ゼアー フェ^レーテン/ダーメン ウント ヘレン

Meine sehr verehrten Damen und Herren

このたび、ドイツ研究協会(DFG:デーエフゲー)の東京事務所が開設されましたことに、心からお慶び申し上げます。

ツ^ネヒスト/メヒテ イヒ デア デーエフゲー/ガンツ ^ヘルツリッヒ

Zunächst möchte ich der DFG ganz herzlich

ツ デア エ^レフヌング/イーレス ビュロース イン トーキョー/

zu der Eröffnung ihres Büros in Tokyo

グラトゥリ^エーレン

gratulieren.

日本学術振興会(JSPS)は、我が国を代表するファンディングエージェンシーとして、我が国の大学との研究助成、若手研究者の育成、大学改革支援を進めるとともに、世界各国との学術交流を促進しております。中でも、ドイツとの交流は歴史と実績を有し、DFG を初めとしたドイツのファンディングエージェンシー、研究機関と非常に深い交流を行っております。本会の国際事業による日本からドイツへの派遣者、ドイツから日本への来日者ともにヨーロッパ諸国の中でも3本の指に入り、両国の関係の深さを示しております。

本会も1991年にドイツ、ボンにセンターを設置しております。過去にJSPSから支援を受けたドイツ人研究者による同窓会活動や、ドイツの各研究機関との共催シンポジウムを行うなど、地域に根ざした活動により、着実に日独の学術交流に貢献して参りました。同様に、我々の最も重要なパートナーの1つであるDFGが、ここ東京にセンターを設置されることは、我々にとっても大きな喜びであり、日独の学術交流の更なる発展をもたらすものと確信しております。

現在、世界では、昨年発生した世界的な恐慌が押し寄せており、日本においても景況感の急激な悪化が感じられます。しかし歴史をひもとくと、不況の時代には必ず科学のイノベーションが起こっております。

こういった時代にこそ、国境を越えて、学術分野で連携協力することは、必ずやこの苦難を乗り越える大きな糧になるのではないかと考えております。

また、このような苦難を乗り越えるために今我々がしなければならないことがもう一つあります。それは、次世代を担う若者への投資です。

我々は、環境問題、地球温暖化、エネルギー問題等々、直面しているグローバルな課題を解決していかなければなりません。その上で優秀な若手研究者を育成することは喫緊の課題であります。

そのため、本会では特に近年、国際舞台で活躍できる若手研究者の育成に力を入れており、様々なプログラムを実施しております。それらの事業にお

いても、日独間の交流は不可欠なものとなっております。特に DFG とは、日独の大学が大学院博士後期課程の学生を共同で指導することを支援する「日独共同大学院プログラム」を2005年から実施しており、日独のこれからの学術交流をリードしていく優秀な若手研究者が着実に生まれております。

本日、基調講演をしていただく本会理事の小林誠先生は、2008年のノーベル物理学賞受賞者ですが、小林先生が尊敬されている物理学者アインシュタインは、物理学を志す青年に「聖なる好奇心を失うな(Never lose a holy curiosity)」と述べたと言われています。若い研究者が持つ「好奇心」には無限の可能性が 있습니다。素粒子物理学の世界を変えることとなった、小林先生・益川先生による論文も、小林先生が京都大学理学部の助手でいらした時に書かれた論文です。このことは、柔軟な思考力と大きな可能性を秘める若手研究者に投資する必要性を示す顕著な例と言えます。

本会はこれからも若手研究者の支援に力を注いで参りたいと思います。

本日の DFG 東京事務所の開設を機に、私ども日本学術振興会としては、ますます日独の学術交流を活性化し、日独二国間で世界のイノベーションをリードしていくことができると考えております。

残念ながら、つい先日まで満開だった桜の花はもう散ってしまいました。日本の桜は花が散ると葉になってしまいますが、ドイツの桜はさくらんぼの実をつけると聞いております。それと同じように、DFG 東京事務所はこれから大きな実をつけることになるでしょう。今後、DFG 東京事務所との協力を楽しみにしております

最後に、本日までご出席の皆様方のますますのご発展を祈念いたしまして私からのご挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。Vielen Dank. (フィーレン ダンク)